HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	高等教育の現場における異文化間コミュニケーション ： 異文化交流クラスでの活発な意見交換に向けて
Author(s)	三枝, 理香
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 6, 93-105
Issue Date	2002-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45631
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC006_008.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学留学生センター紀要　第6号　(2002)［研究ノート］

高等教育の現場における異文化間コミュニケーション
－異文化交流クラスでの活発な意見交換に向けて－

三　枝　理　香

[Abstract] This paper explores the factors affecting the active exchange of opinions among students from different cultural background within a classroom setting. When Asian and Western students gather in one classroom, utterance tends to be dominated by the Western students. As interaction through utterance has great importance to the learning outcome of the whole class, every student should be encouraged to participate actively in a classroom discussion. A case study was conducted to investigate the factors that influence the students' behavior when communicating with people from different cultural backgrounds. By asking the respondents how they would react in certain situations, the intercultural communication tendencies of each cultural group are revealed. Factors inhibiting Asian students from participating in class discussion are discussed and some suggestions concerning the role of teachers to achieve active interaction among students are presented.

1. はじめに

コミュニケーション・スタイルに個人の文化背景が大きく影響することは、これまでの異文化間コミュニケーションの研究で述べられてきた。しかし、異文化間接触の機会が増す中、各現場で生じている文化差によるコミュニケーション上の問題については、具体的な改善策の研究が必要とされている。

本稿では特に高等教育の現場に焦点を当て、文化背景の違う学生のコミュニケーション・スタイルの差を「発言」を通した授業への参加姿勢という面から比較する。アジアと欧米という対照的な二つの文化圏を具体的な状況に絞って比較・分析することにより、アジア系学生の積極的な「発言」の妨げとなる要因を探り、異文化混在のコミュニケーション活動における

教師の役割を考える。その際、研究の対象となる高等教育の現場を、文化背景の異なる教師や学生達が一つのスペースを共有して教育活動を行う場という定義のもと「異文化交流クラス：'Intercultural Classroom'」と呼ぶことにする。

本研究の構成は、まずアジアと欧米の文化差及び「発言」やディスカッションに関するこれまでの研究をあげる。次に「異文化交流クラス」の一例をアンケート調査によるケース・スタディとして報告する。言語能力・教育的背景・文化差の3点に焦点を置いた意識調査の結果から最後に「異文化交流クラス」で活発な意見交換を導く為の教師の役割について具体的な案を提唱する。

2. 研究の焦点

本研究は異文化間コミュニケーションという大きなテーマの中で、研究の焦点として以下の点に着目した。

①現場の選択：なぜ「高等教育」か。

社会学者のパーソンズら（Parsons, Shils, Tolman, Allport, Kluckhohn, Murray, Sears, Sheldon & Stouffer：1951）によると、人の行動様式や人と人との間に起こるコミュニケーションの型は「文化」により規定される。また、「文化」とは、先天的ではなく後天的に、経験や学習を通して習得されるものである（Kroeber：1948、久米：1994）。よって、教育現場でのコミュニケーション・スタイルに表れる文化的背景の比較には、中等までの教育経験が反映される「高等教育」の現場が適当と考えられる。

②「発言」による授業参加：

「発言」は、多人数間のコミュニケーション活動において個人の意見を表明する最も一般的、かつ直接的な方法である。またディスカッションでは1つの「発言」が討論全体の方向付けに大きく影響を与えることにもなり得る。このように、意見交換の場で重要な役割をもつ「発言」は、頻度よりもその行動、つまり各自の意見を表明するという行動をとること自体に意味があるといえる。本稿では「異文化交流クラス」において学生間の「発言」の回数を比較するのではなく、異文化混在の状況のもとで「発言」という行動をとろうとするかどうかの意識的な面に注目して研究を進める。

3. 先行研究

異文化間コミュニケーションにおいて、個人のもつ要素の差が大きければ大きいほどコミュニケーション活動は難しくなると考えられる。Samovar, Porter and Jain の示した「文化、小文化集団、小集団の社会・文化的比較」によれば、アジア人と西洋人は文化差の度合いが最も大きい（1981）。この２つの対照的な文化比較の研究で発話はそれぞれの特徴を表す研究項目の一面としてとり上げられてきた。一般的な理解は、荒木（1995）が日本人と他の国民（アメリカ人、ドイツ人、フランス人、インドネシア人）とのコミュニケーション・スタイルの比較研究をまとめた通り、欧米人は沈黙を美徳とせず、自己主張を重んじ自分の意見をはっきり示すことに価値を置く一方、アジア人は控えめではっきり言うことを避け、沈黙を重んじる傾向があるととらえられている。

次に、大勢の人前で話をするときに感じるコミュニケーション不安（以下ＣＡ）については、西田（1996）が大学生を対象に行った比較調査がある。人種間の差を見ると、日本人のＣＡは状況に関わらずアメリカ人のＣＡよりもはるかに高いことがわかった。

このような文化差が引き起こすコミュニケーション・ギャップの要因について、Barna（1976）は、アメリカ人とのディスカッションに参加した韓国人留学生への調査から困難を感じる理由として、語学力の問題、ディスカッションのテンポ及び仕方、間違ったことを言ってしまうのではないかという不安など具体的な点をあげている。また、西田（1996）はアメリカ人とのディスカッションで日本人留学生が黙っている状況において言葉の側面及び文化的・社会的要因に注目し、コミュニケーション・スタイルの違いを互いにどう受け止めるかについて意識調査を行った。ディスカッションに参加できない留学生に話す機会を与えたり質問をしたりする、留学生自身もっと積極的に話しに入るよう努力すべきだ等、学生側の対策案はあげられているが、教師の役割については述べられていない。

一方、教室活動での「発言」に関しては、言語教育において特にその重要性が評価されており、梶原（1992）は教室活動で発話を促す動機は話したいと思う気持ちと知りたいと思う欲求にあるとし、学習意欲や効果を高める教室活動をとり入れることを推奨している。また、野原（1999）は学習者の自発的発話が学習効果に効果的に影響するという観点から、積極自発を導く教師の学習支援言動として、授業参加者の間にインターアクショ

ンのある状況、いわゆる交渉を行うことが出来る状況を作り出していく言動を提唱している。これらは言語習得を目的とした自発的発話について述べているが、Slimani（1992）が述べるように、学習者はクラスの内容に貢献する機会を与えられた場合、その項目を学んだと感じるとすると、他の分野においても「発言」による学習効果は期待できると考えられる。故に、より広い分野を対象とした研究が必要である。

4. 調　査

以下の手順に従って、質問用紙を用いたアンケート形式によるケース・スタディを行う。

4.1 調査の目的

本調査の目的は、「異文化交流クラス」において学生の「発言」による教室活動への参加姿勢を比較し、アジア系学生の積極的な参加の妨げとなる要因を探求することである。そして、「異文化交流クラス」における教師の役割を考える。

4.2 調査の対象

先に定義づけた「異文化交流クラス」の一つとして、オーストラリア、マッコーリー大学のメディア・コミュニケーション学部修士課程コース、"International Communication Program"（以下ICP）の履修者のうち無作為に選んだ60名を調査の対象とする。学生は世界の様々な地域から集まり、フルタイム、又はパートタイムで1年半から2年程度かけてコースを修了する。半期ごとに学生が出入りする為、学生数は一定しないが、常時60～80名程度の学生が履修している。受講者数は科目により異なり、必須科目は1クラス30名以上、選択科目は7～8名のものもある。クラスはほとんどが講義とディスカッションを組み込んだ形式をとっている。

4.3 質問項目の設定と調査の手順

調査は異文化間コミュニケーション研究の枠組みのもと、西田（2000）があげた以下の側面に従って進める。

1）文化背景の異なる人々がコミュニケーションするとき、どのような要因がどのようにコミュニケーションに影響するのか。

2）なぜそのように行動するのか、そのメカニズムとは何か。
3）もし、文化背景の違いからコミュニケーション上に問題が生じるならば、どうすれば誤解やコミュニケーション摩擦を避けることが出来るのか。

質問項目の設定には、Sarbaugh（1988）の提唱した異文化コミュニケーションにおける18の原則を教育現場に当てはめ、言語能力・教育背景・文化差という3点に焦点を当てて以下の4部構成にした。

第1部：被験者の国籍、使用言語、母語、英語（クラスでの媒介語）が母語でない場合には英語力の自己評価、出身国、長期居住国、最も長く学校教育を受けた国等、データ分析のベースとなる個人情報。

第2部：被験者が経験した過去の教育システムについて。クラスの規模（人数）と授業形式（講義型かディスカッション型か）、及び発言の機会。

第3部：被験者の「異文化交流クラス」（ICP）への参加意識。好ましいクラス規模や授業形式、発言の仕方。2つ以上の解答も可とする。

第4部：オプショナルとして教室活動で意見交換をしやすくする為の意見や提案。自由に書いてもらうスペースを設けた。

調査手順は、授業後、被験者にアンケート用紙を配り、5～10分程度かけて質問項目に答えてもらいその場で回収した。回答の重複を避け、一人の学生には一度だけアンケートに答えてもらうようにした。率直な回答を求めたい為、無記名にした。

5. 結果の分析と考察

被験者の国籍は表1）の通り様々な地域からの14カ国にわたり、そのうち97％は出生国、長期居住国、学校教育を受けた国が同一国である。使用言語については30％が英語、70％（内95％はアジア系）がそれ以外の言語を母国語としている。英語の非母語話者による英語力への自信は90％が10段階の5～9を示している。

第2部以下は、被験者を地域別に3つのグループ：欧米・東南アジア・東アジア、に分類し（アフリカについては回答者数が少ない為、分析の対象には加えない）、人数の分布をパーセ

表1）被験者の国籍

国　籍	人数
オーストラリア	6
ニュージーランド	1
アメリカ合衆国	2
イギリス	3
ポーランド	1
ボスニア	1
スロバキア	1
シンガポール	5
タ　イ	18
インドネシア	1
中　国	15
日　本	3
韓　国	2
ジンバブエ	1
合　計	60

ンテージで示した。

表2）中等教育のクラス規模（%）

クラス規模(人)／地域	欧　米	東南アジア	東アジア
２０人以下	0	0	0
２０～３０人	87	12	10
３０～４０人	13	71	5
４０～５０人	0	17	80
５０人以上	0	0	5

表3）中等教育における授業形式（%）

授業形態／地域	欧　米	東南アジア	東アジア
講　義　型	50	92	100
ディスカッション型	50	8	0

以上の結果から中等教育までの学校教育システムを比較すると、欧米系の学生は比較的少人数で変化ある授業形式を経験しているのに対し、アジア系、特に東アジア系は多人数で受身形の授業形式に偏っている。これは、アジア系の学生が過去の教育経験において「発言」による意見表明の機会をあまり与えられていない、つまりそのような状況に慣れていないといえる。

次に学生の「異文化交流クラス」参加に対する意識調査の結果である。

表4）ICPの学生の教室活動への参加姿勢（%）

質　問	回答の選択肢	欧　米	東南ア	東　ア
1　好ましい授業形態	a．講義型	7	21	35
	b．ディスカッション型	73	67	65
	c．両方	20	13	0
2　好ましいクラスの	a．５人以下	0	0	5
規模（人数）	b．５-10人	44	24	30
	c．10-20人	50	64	50
	d．20-30人	6	12	15
	e．30-40人	0	0	0
	f．40-50人	0	0	0
	g．50人以上	0	0	0

3 ディスカッションをし易いと思う状況	a．クラス全体	50	29	10
	b．小グループ	50	71	90
4 クラスでの発言時気になる要因	a．クラスの規模	36	23	18
	b．言語	27	50	45
	c．文化の違う学生の存在	9	10	14
	d．教師の言動	18	10	18
	e．その他	9	3	5
5 クラスで発言することが好き／嫌い	a．好き	67	25	30
	b．嫌い	0	0	10
	c．状況によって好き	33	75	60
6 教師への質問の仕方	a．授業中（他の学生の前）	86	38	30
	b．授業後、個人的に	7	50	60
	c．時による	7	12	10
7 クラスでの教師の質問への答え方	a．すぐに発言する	63	23	29
	b．誰かの後、発言する	21	13	17
	c．教師に指名されたら発言する	11	30	21
	d．小グループなら発言する	0	30	29
	e．発言しない	5	3	4
8 質問7でa以外の回答者に。すぐに発言しない理由となる要素	a．言語	1	8	7
	b．クラスの規模	1	8	5
	c．他の学生との文化差	0	0	1
	d．その他	0	2	0
9 小グループで話し合いをする時	a．先手をきって発言する	93	60	47
	b．意見を求められたら発言する	7	40	53
	c．発言しない	0	0	0
10 グループに発言しない人がいる時	a．自分の発言を続ける	0	0	5
	b．発言の機会を与える	7	31	30
	c．発言を促す	86	65	65
	d．気にとめない	7	4	0
	e．その他	0	0	0
11 グループ内で自分と違う意見の人が発言を独占する時	a．聞きつづける	19	19	10
	b．自分の意見を主張する	6	2	32
	c．他の人の意見を求める	75	57	53
	d．その他	0	12	5

好ましい授業形式とクラスの規模はグループを問わずディスカッション型、10～20名程度に集中した。質問３）の回答で欧米系はディスカッションの際、グループの大きさをそれほど意識しないようだが、アジア系、特に東アジアの学生は小さいグループの方が発言しやすいと感じている。

地域により差が現れたのは、質問４）～７）である。クラスでの発言時に気になる要因として、非英語母語話者の大部分が「言語」を第一に挙げている。第１部の結果で英語の非母語話者の英語に対する自己評価はかなり高かったにもかかわらず、発言には言語能力をかなり意識している。また、クラスの規模の他、少数だが教師の言動や他の学生との文化差も発言に影響していることがわかる。

質問５）では欧米系に比べ、アジア系の学生は発言に消極的ではあるが、発言を拒んでいるわけではなく、状況により意見を述べる意欲があることがうかがえる。

質問６）～９）に見られる授業参加のストラテジーで、欧米系に比べアジア系の学生は少人数間の接触方法を好む傾向がある。また、教師の指示も重視している。即答を避ける理由として言語力とクラスの規模を主な要因としてあげていることは質問４）及び７）の結果と重なる。

質問10）及び11）はグループ活動についての設問であるが、全体的に協調的な解答が多く得られた。

6. まとめ

以上の結果からアジア系学生が「発言」に消極的になる要因をまとめると次のような点があげられる。

- クラスの規模－大きさに比例して発言がしにくくなる。
- 言語能力－媒介語が母国語でない場合には、言語能力にある程度の自信があっても「発言」に際しては不安の要素として働く。
- 「発言」に対する教師の反応。
- 「発言」に対する他の学生の反応。
- 「発言」をするタイミング－教師の指示があれば意見を述べやすい。

これらの要因をふまえ、「異文化交流クラス」で「発言」をし易い状況を作る為の教師の役割として以下の点を提唱する。

① コミュニケーション活動を行うグループの規模を調整することにより、言語能力や他のメンバーからの反応等「発言」時の不安要素を軽

減し、「発言」し易い状況を作る。多人数クラスの場合には、小グループに分けて意見を交換させた後、全体のディスカッションに運ぶなどの工夫が考えられる。

② 媒介語を母国語としない学生には、言語面でのサポートを試みる。質問や指示を出す際、理解しにくい用語の使用を避けると共に、学生の「発言」時、必要と思われる場合には「発言」の内容が他の学生に伝わる手助けをする。

③ 教師自身との文化差が無意識的に学生の自信を失わせないよう、教師対全学生の中で教師対１学生の異文化接触をも意識する。特に、学生の「発言」後のフィードバックやその後の教室活動への運び方により「発言」し易い環境を提供し、「発言」の内容が的を得ていなかったとしても批判的な反応で意見を表明することへの自信を失わせないよう配慮すべきである。

④ 他の学生からの反応が「発言」の妨げとならぬよう、「発言」者と他の学生との関係に気を配る。逆に学生間の文化差が教室活動全体のメリットとして働くような指導法を工夫すべきである。教室内の緊張を和らげ、学生同士が接触を通して互いを知り合う機会を設けることにより、自他の差の意識を縮めるよう働きかける。

⑤ 「発言」の機会に偏りがみられる場合には、指名により他の学生にも機会が回るよう調節する。

7. おわりに

本稿では「異文化間コミュニケーション」という大きなテーマを教育現場における「発言」に焦点を絞って研究を行った。調査の結果あげられた要因はどれも「自」と「他」の意識という心理的な面に帰すると考えられる。個人が既に経験により身につけた文化的背景を変えることは困難であるため、既に存在する文化差を現場の状況の中でどのように調和させていくか、その一環として教室活動での教師の役割を考えてきたが、参加者自身がそれを意識しなければ本当の意味での改善は難しい。教室活動で活発な意見交換が出来る状況を作り出すためには、教師のその場の対応だけでなく、現場をとりまくより広い範囲における改善が必要ではないだろうか。課外活動などを利用したメンバーの一体感を生み出す工夫や教育機関の協力なども考えられる。更に視野を広げた研究を今後の課題としたい。

参考文献：

荒木晶子（1995）「異文化接触とコミュニケーション」渡辺文夫編『異文化接触の心理学』pp.97-107　川島書店

梶原慶子（1992）「学習者からの情報収集と教室活動」『日本語教育研究会実習課程－報告書』pp.51-58　日本語教育研究会

久米昭元（1994）「異文化コミュニケーション」石坂和夫編『国際理解教育事典』pp.82-85　創友社

西田司著（1996）『異文化と人間行動の分析』多賀出版

西田ひろ子著（2000）『異文化間コミュニケーション入門』創元社

西田ひろ子著（1996）『実例で見る日米コミュニケーションギャップ』大修館書店

野原美和子（1999）「学習者の自発発話を導く教師の学習支援的言動：積極的な自発発話の場合」国際交流基金　日本語国際センター『世界の日本語教育』vol.9　pp.101-113

Barna, L. M. (1976) "Intercultural Communication Stumbling Blocks" in *Intercultural Communication: A Reader*, eds. L. A. Samovar and R. E. Porter. Belmont, Calif: Wadsworth.

Kroeber, A. L. (1948) *Anthropology, Race, Language, Culture, Psychology, Prehistory.* New York; Harcourt, Brace.

Parsons, T., E. S. Shiles, E. C. Tolman, G. W. Allport, C. M. Kluckhohn, H. A. Sears, R. R. Sheldon, R. CX., & Stouffer, S. A. (1951) Toward a general theory of action. Cambridge: Harvard University Press.

Samovar, L. A., R. E. Porter & N. C. Jain (1981) *Understanding intercultural Communication,*Belmont, CA: Wadsworth.

Sarbaugh, L. E. (1988) *Intercultural Communication,* New Brunswick: Transaction Books.

Slimani, A. (1992) "Evaluation of classroom interaction" in *Evaluation second langage education,* ed. J. C. Alderson and A. Beretta, pp.197-221. Cambridge: Cambridge University Press.

Questionnaire for "Intercultural Classroom"

Rika Saegusa

Your honest responses to this survey will assist me in analyzing the communication gap in intercultural classroom. You do not have to identify yourself in filling in this form. Please be frank in answering the questions and give additional information if you like. Your cooperation is greatly appreciated.

Section I :

1. *Your nationality:*_____
2. *The languages you speak (please list them up and circle the primary one) :*

   _____
3. *Your confidence in speaking English (if you are non-native speaker of English) :* 〈 *unconfident*←1 2 3 4 5 6 7 8 9 10→*confident* 〉
4. *Your birth place :*_____
5. *The country where you have spent most of your life :*_____
6. *The country where you have had most of your school education :*_____

Section II :

7. *The education system you had : (Please answer with a letter in the table below)*

   ①*How big was a class? The number of students in a class was...*

   a) less than 10 b) 20-30 c) 30-40 d) 40-50 e) more than 50

   ②*The class was more like...*

   a) Lecture type - a teacher speaks most of the time

   b) Discussion type - students can also speak out in class

	Question ①	Question ②
up to the Secondary school		
Tertiary education		

8. *Please answer the following questions with the level of frequency (mark in the table).*

   "In the class, how often did you have..."

	Never	*seldom*	*sometimes*	*often*	*always*
an opportunity to speak out?					
a chance to ask questions to a teacher?					
a chance to express your opinion?					
interaction with a teacher?					
interaction with the other students?					
debate training?					
group discussion?					
class presentation?					
a chance to speak in public?					

Section Ⅲ *:*

9. The following questions are about your present attitude in a classroom.

1. Which type of class do you prefer?

a) Lecture type b) Discussion type c) both

2. Which size of class do you prefer? - A class with...

a) less than 5 people b) 5-10 people c) 10-20 people d) 20-30 people e) 30-40 people f) 40-50 people g) more than 50 people

3. Which do you prefer to have a discussion...

a) in a whole class b) with a small group of a class

4. What factors make it difficult for you to participate in discussions in class?

a) size of the class b) Language ability c) being with people from different culture d) teaching style - lecturer's instruction e) other:

5. Do you like to speak out / express your opinion in a class?

a) Yes b) No c) sometimes

6. In the following situation, what would you do?

You have a question. You would ask a teacher...

a) in the class b) after class individually c)depends

7. *A teacher asks a question to the class. You have some idea in your mind. You would...*

a) speak out straight away.

b) speak out after someone else has said something.

c) express your opinion if you are identified by the teacher.

d) express your opinion if it is in a small group.

e) not say anything.

8. *If you did not choose a), what do you think the reason is? It is because...*

A) You are not confident in speaking English

B) You are not accustomed to speaking out in a big class

C) You are not comfortable with culturally different people

*D) Other reason as below:*_____

9. *You are in a small group discussion. You will...*

a)start talking about the topic b) talk if someone asks your opinion c) just listen to others

10. *There are some people who keep quiet in your group. You would...*

*a) keep expressing your opinion b) try to give a chance for them to speak out by stopping your talk c) encourage them to speak out by asking d) you may not notice them in the first place e) take other action as below:*_____

11. *There is someone in a group who keeps talking. His idea is different from yours. You would...*

*a)keep listening to him b) insist on your opinion against him c) try to have other members' opinion d) take other action as below:*_____

SectionⅣ:

10. *This is an optional question. Please make any comment or just ignore. Do you have any suggestions how you can make it more comfortable to speak in a big class?*

_____

Thank you very much for your cooperation.